

自律学習の構築から「ヨーロッパ言語ポータルフォーラム」の形成まで：

戦後ヨーロッパの言語教育政策にみる
自律学習

西山教行（京都大学）

戦後ヨーロッパの言語教育の柱

- 基礎フランス語（1952年，1954年）
- Threshold Level(1975)
- ヨーロッパ共通参照枠（2001年）
- ヨーロッパ言語ポートフォリオ（2001年）

欧州評議会の結成(1949)

- 民主主義と法の支配の保護
- 人権の保護
- ヨーロッパの文化的アイデンティティーと多様性の促進

欧州評議会の言語文化プロジェクト

- 現代語教育
- 移住者の言語教育, 移住者の子弟の就学化
- ヨーロッパ市民教育

基礎フランス語の策定

- フランス国民教育省ならびにユネスコの主導
(1950年)
- フランス語普及研究センターの策定
- 外国人，移民，植民地人へのフランス語普及
- 英語の拡大に対抗
- フランスの国際的地位の確保

基礎フランス語の構造と意義

- 1475語から構成されたレベル1
- 3000語から構成されたレベル2
- 全体構造視聴覚法(SGAV)に貢献
- 教師主導の教授法
- 自律学習は考慮せず

欧州評議会の言語教育プロジェクト

(第1期1963-1972)

- 現代語教育の推進を確認
 - オーディオ・ビジュアル・メソッド
 - 応用言語学からの視点
- 「コミュニケーション」に向けた言語学習
- 自律学習への言及はない
- 「生涯学習としての」言語学習

欧州評議会の言語教育プロジェクト

(第2期1971-1977)

- Thresould Level(1975), Niveau seuil (1976)の刊行 (現在までに24言語)
- 概念・機能シラバス
 - 外国語の自律的使用
- コミュニケーションへ向けた言語教育
 - コミュニカティブ・アプローチに貢献

欧州評議会の言語教育プロジェクト

(第3期1981-1988)

- 教員養成プログラムの推進
- 学習目標の設定
- 教授法の刷新
 - 自律学習への言及はない
 - 自律学習に関する研究の進展

欧州評議会の言語教育プロジェクト

(第4期1989-1997)

- 言語学習とヨーロッパ市民プロジェクト
- 「学習の学習」がテーマ
- 自律学習に特化した研究集会の開催

ヨーロッパ現代語センターの開設

- 1962年，1977年に，オーストリアで開設の計画（実現せず）
- 1992年に開設
- 中欧，東欧諸国のヨーロッパ文化協定へ調印
 - ソ連崩壊による東ヨーロッパの解放
 - 言語教育の民主化の推進
- 自律学習の推進

欧州評議会の言語教育プロジェクト

(第5期1997-2001)

- 『ヨーロッパ共通参照枠』 (2001)
- 自律学習の推進
- 『ヨーロッパ言語ポートフォリオ』 (2001)
- 自律学習の制度化
- ヨーロッパ言語年 (2001)
- 言語教育の普及, 推進

ヨーロッパの言語教育政策の流れ

- 一国の主導から，ヨーロッパ統合の一環へ
- 教師中心から，学習者へ
- 自律学習の評価へ
- ITCの発展とヨーロッパの拡大
- 言語教育の民主化へ